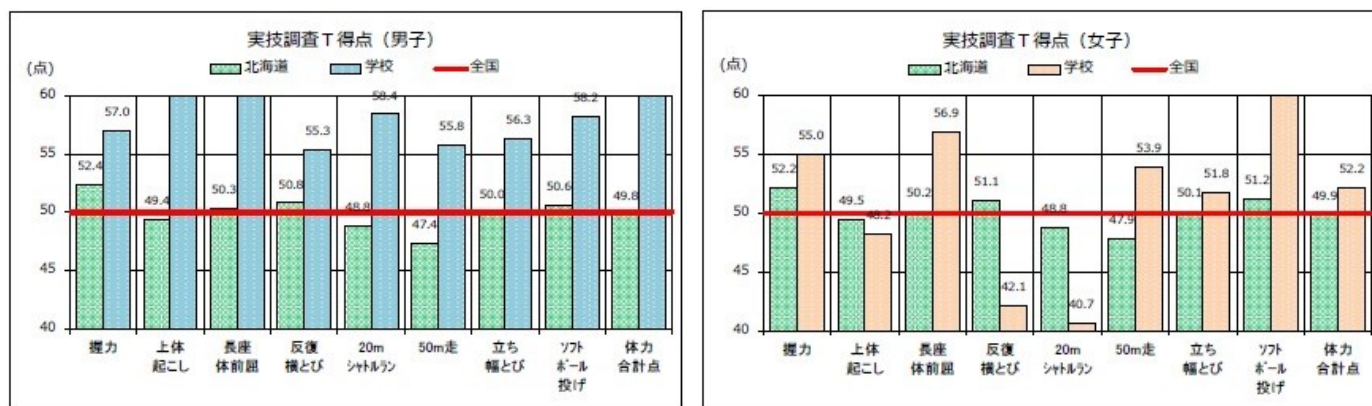


令和元年に全国一斉に行われた標記調査の、本校の結果の概要をお知らせします。

本調査は、新体力テスト「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の8種目と、「運動やスポーツが好きですか」などの質問に答える児童質問調査がありました。

<結果について>



男子～総合得点にて、全国・全道の平均よりも大きく上回っている。

全ての項目で全国平均も全道平均も大きく上回っている。休み時間遊びの奨励や体育の授業改善等取組を進めてきた成果が出ていると考えられる。

女子～総合得点にて、全国・全道の平均よりも上回っている。

「ソフトボール投げ」で全国・全道平均を大きく上回り、「握力」「長座体前屈」「50m走」「立ち幅とび」でも上回っている。しかし、「反復横とび」や「20mシャトルラン」では大きく下回っている。今後も「走る」（長距離）ことを重点にした体育の授業改善，運動できる場の提供や時間の保障などに取り組んでいく。

<改善策について>

- ・体力テストの結果分析。
- ・運動の「質」「量」「強度」を意識した個人目標の設定。→「めあて」と「まとめ」の“見える化”
- ・個人の「質」「量」「強度」を確保した体育の授業改善。→「頭と体に汗をかく45分」
- ・全学年体力テストの実施。→全学年での傾向と変化を“見える化”
- ・体力強化週間の実施。→全校での取組を強化
- ・集団遊びの実施。→児童会主体で引き続き取り組む
- ・「運動会」「スケート」「スキー」などの活用。→外部人材の積極的活用
- ・家庭や地域への情報提供と協力依頼。→学校だよりやHP等にて

<児童質問調査から>

「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きですか。」や「体育の授業は楽しいですか」の質問には、男子も女子も全国平均を上回り，運動に対する意識が高い。一方で「体育の授業で学んだことが将来役に立つと思いますか」で全国平均を下回ることから，体育の教科のねらいをより明確化するとともに，授業に対する意識をさらに高める必要がある。また，「家の人から運動やスポーツを積極的に行うことを勧められたことがありますか」の質問では，全国平均を下回っているため，家庭や地域との連携を一層すすめて，学校・家庭・地域で子どもの体力向上を目指していけるよう情報発信などに努める。